八江莊名所図会

六

ル 4
303
6

呂
門
303
6

八江萩名所圖画六之巻

目録冬之部完

廣嚴寺　同図　諏訪明神社　同圖　松本大橋　同図
扇の芝　明安寺　下津江落雁　同画　長慶寺　城ヶ腰
船津　松本鑄物司図　鶴江夕照図　阿胡海　加利島
音聲寺　同圖　神明社　荒神社　菊江夕照　千本松
香川津弁天社　小畑　茶碗屋圖　雅樂殿川　同圖
疫神荒神相社　白山權現社　同図　勝屋權現舊地　妙見社
永照寺　觀音堂　同画　越濱明神社　同圖

萩垣屋蔵版

已上目録参拾八條

八江萩名所圖画六之巻

木梨恒充　著述
山縣篤藏　補正

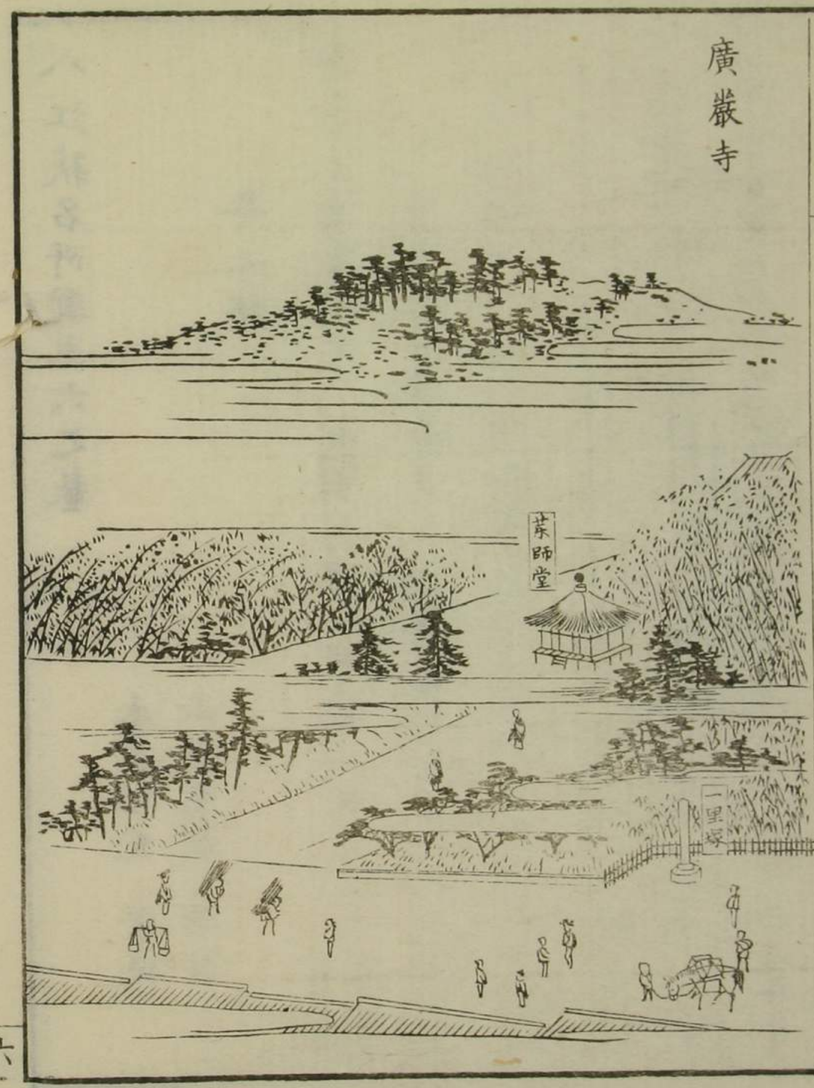
冬之部

華園山廣嚴禪寺　松本上市一里塚の所にあり

当所を市と云ふ　花園の

天台宗の禪刹にして本尊釈迦如来ハ行基菩薩の作中興を一天大佐和尚と号す舊古人皇百二代後花園院の御代永享年間の草創にして花園山安養寺と勅額を賜りし古刹なりと云其後荒廢し慶長の中比再建して今の寺号に改め猶改宗近頃海潮寺に属す

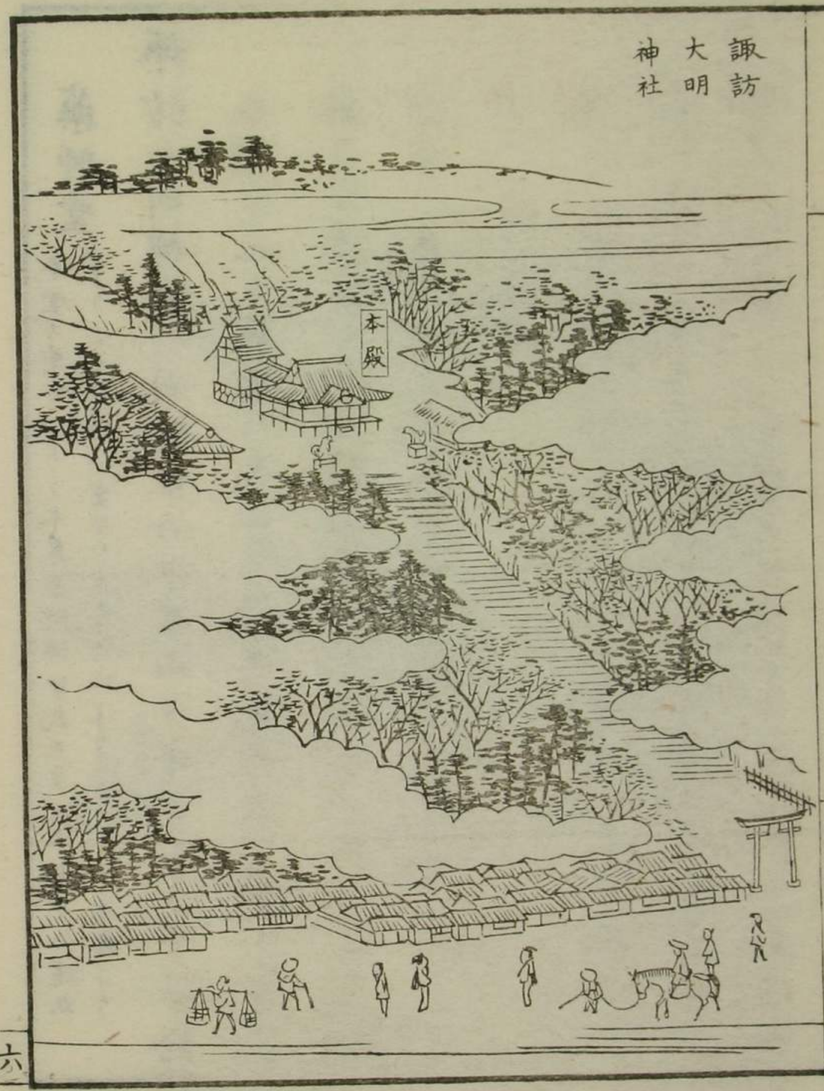
廣巖寺



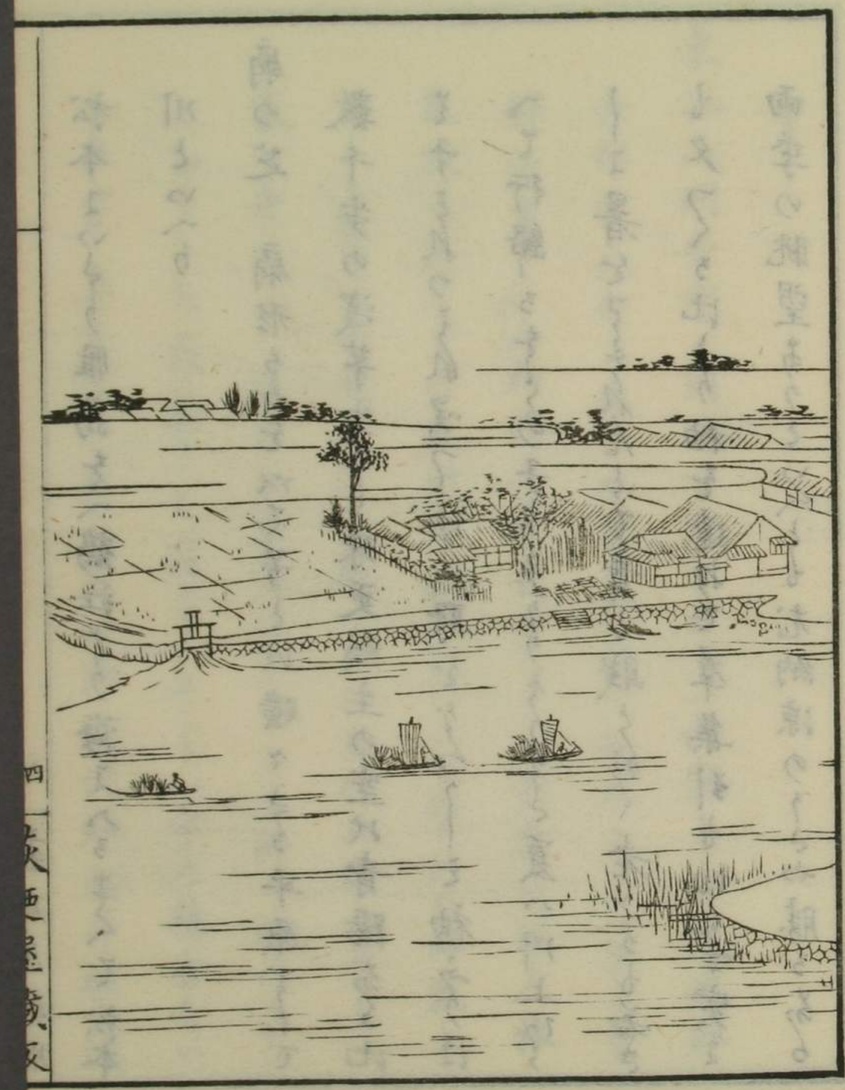
藥師堂　本堂の前右ニあり本尊藥師佛聖武天皇天平年中の建立なりといひ傳ふ堂宇ハ永享の比なりして今ニ連綿ニり

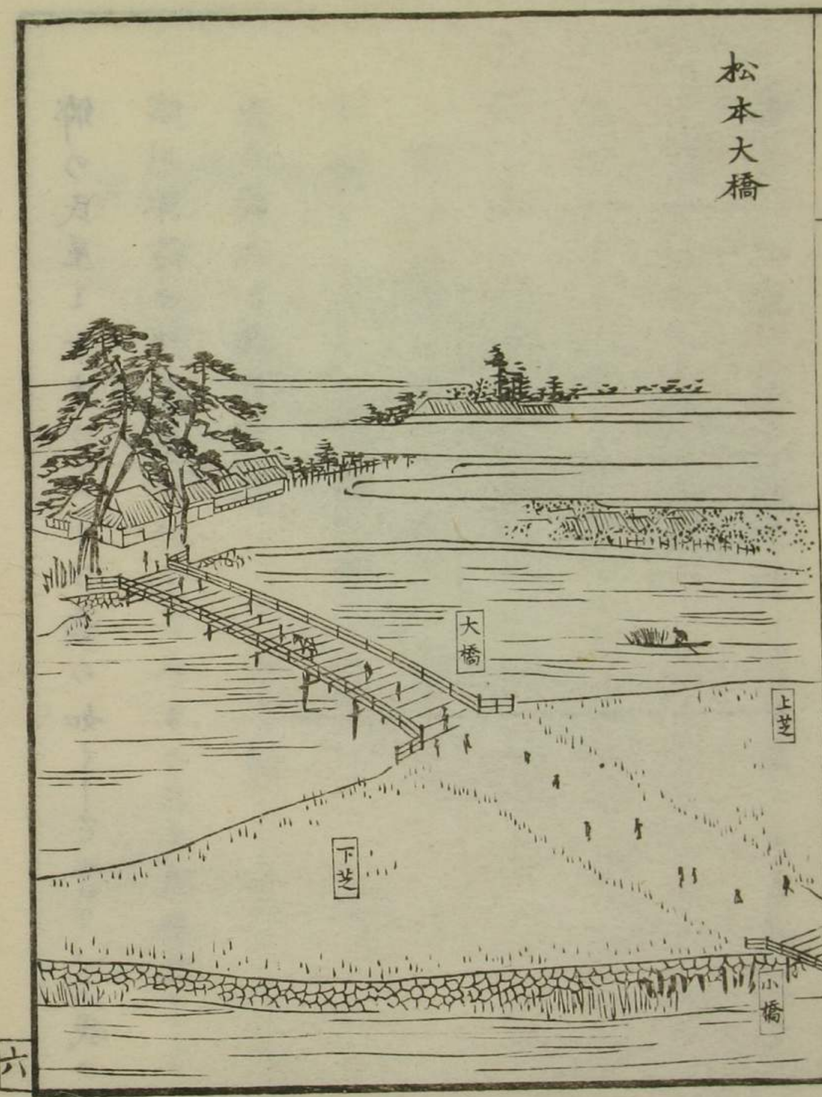
諏訪大明神社　同所市の中程山の半ニありて二丁餘石壇を上る當社ハ天正年間吉見大藏大輔正頼再興ニる所ニりて其創始詳ニらずに初め社地松本諏訪谷ニ在り依て今猶此名を称す後寶永年中今の所へ迁し奉る

傳ニ曰往昔欽明帝三十年正月長州阿武郡椿郷の南ふ當りて夜ニ〳〵光氣ありて四方を照す陰陽頭ト部等之を占トして神の奇瑞ありといくりとゑ其須此



郷の民屋ニ十才の女子狂癲の如くして詈りいふ我ハ
信州諏訪の神靈なり此地名木多くれと我垂跡して
長く國民を撫育せんといひて即て醉のさめるがごとく疾
平癒しなり郡司此事を聞て大きに恐歎し即て
一叢祠を建て諏訪大明神と崇め尊ミなりと
松本大橋　同所中島より扇の芝ニ架す長三十六間
鯉鱗橋　まさハ六々橋ともよ呼へり元禄十二年初て是
を架す初めハもろ〳〵の反もおりしといへり　川筋ハ
橋本川ニ同〳〵川上太甲灣より分派して中津江より

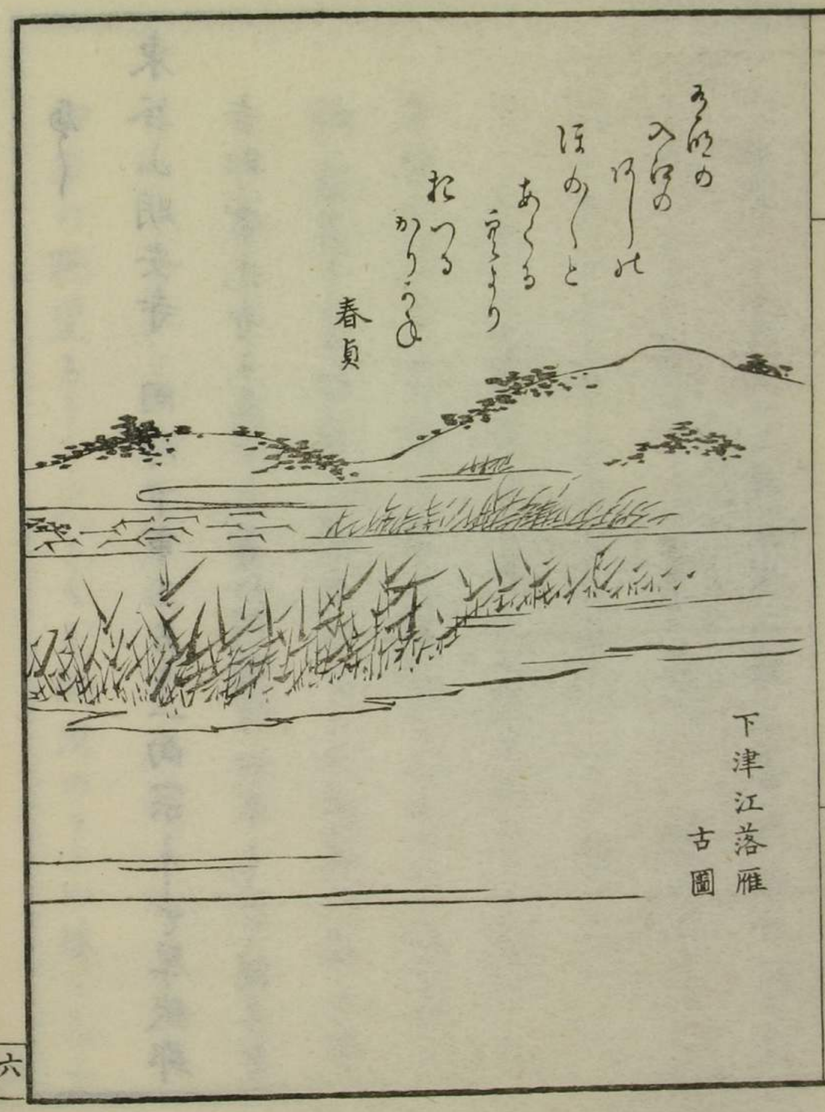



松本大橋
大橋
上芝
下芝
小橋

松本にいたり雁島をへ鶴江より海に入るもへて松本川といへり

扇の芝　扇形なるを以て号とに曠々たる平原にて數千歩の浅茅生ちり殊更彌生の空ゝ青陽なる比もすこしつゝれ咲てけハ野をなしたるゝ袖ふりはへて行歸るをとめ子も多りなりまさ夏ハ川上にゝ暑をいとゝれんとて貴と賤とをく老ゝも若きも夕つくゝ比より袖を連ねて羣集引も切らず実に両季の眺望ありといへとも尤納涼のゝさや勝るなる

東谷山明安寺　同所下市にあり一向宗にて厚狭郡吉部常光寺に属す本尊ハ阿彌陀如来にて開山を釋道甫といふ相傳ふ慶長のゝめ関東の浪人林筑後といふるもの石州津和野村にて學問の師範さしゝ竟に吉見廣行に属して羽島作兵衛と号し一家の幸臣ゝり後吉見家没落せしより終に法れゝちにおりゝち雜髪して道甫と号し一宇の精舍をいとれみて真言宗を學ふ其以降阿武郡福井村に迁



下津江落雁
古圖

旅雁秋高
倖未征
一汀水氣
接天晴
向渠緣底
謾来去
不耐寒江
万里情
原欽

三岳園圖

りて一向宗ニ改むつひニ承應のそ〻め當所ニ土地
を賜ふて本堂を建立せりといふ

下津江落雁　八重萩八勝の一ニて風光そ〻ろ西
國ニ異あり

旅雁秋高停未征一汀水氣接天晴問渠緣底
謾來去不耐寒江萬里情　原欽

あ〻の入江の芦はほの〻とわくるそらの雁たるか　春貞

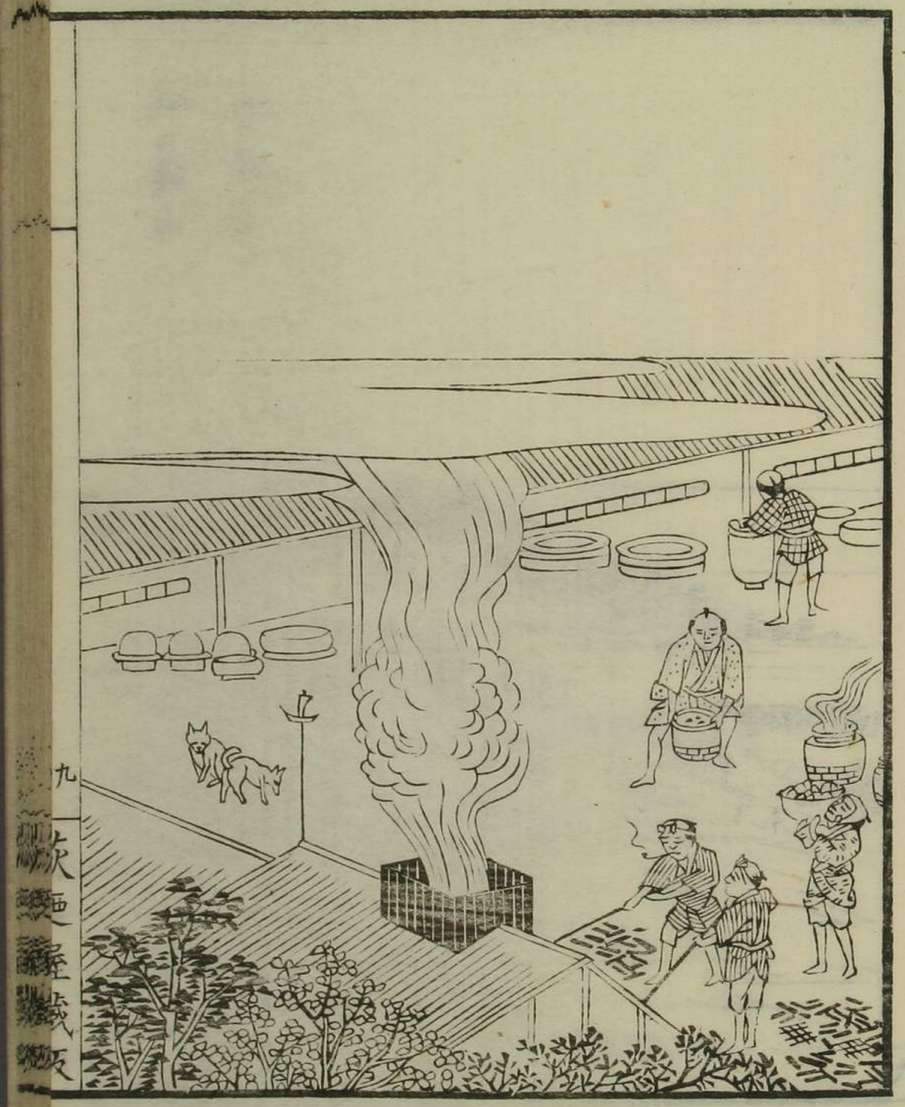
吉祥山長慶寺　宇田ゝ原ニあり黄檗派の禪宗ニて
東光寺ニ屬す本尊に聖觀音を安して開山ハ燭宗

元綱和尚といふ相傳ふ始大島郡屋代邑ニありて長
慶菴といひしを正德元年唐樋町々人中村源兵衛
といふものの開基せし所なりといふ

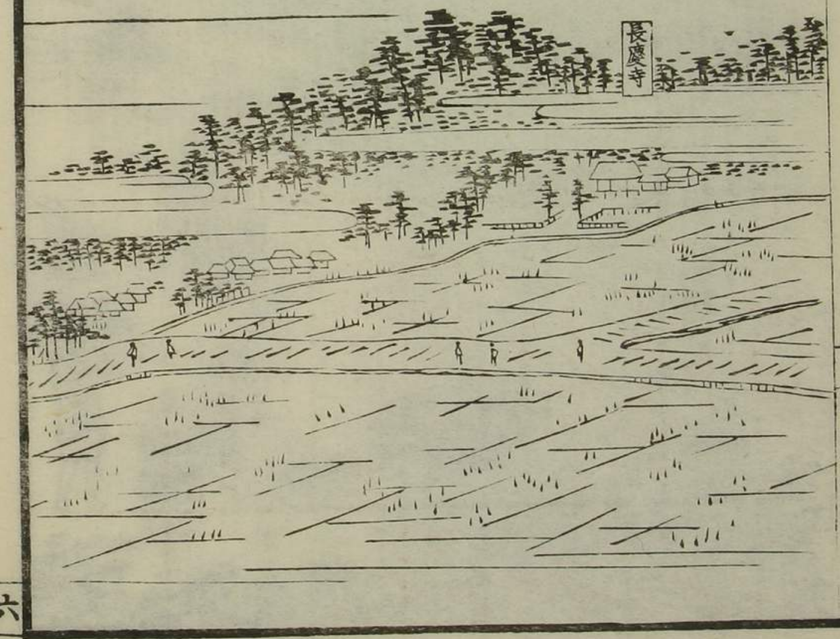
城ヵ腰舊跡　同所の上に山をいふむ〻尼子の家臣松
倉伊賀守の城跡なりと土民のいひ傳ふる所なり　今栗
屋氏下屋敷の上ニ小き森ありてうハら石の苔むしるあり是を伊賀守
墳墓といひ傳ふ萩四りとふ文ニ早乙女ゝ〻ひつまゝゝゝりゝ馬
手ハ松〻ら伊賀守ゝむゝ
しの城の巧〻かや云ゝ

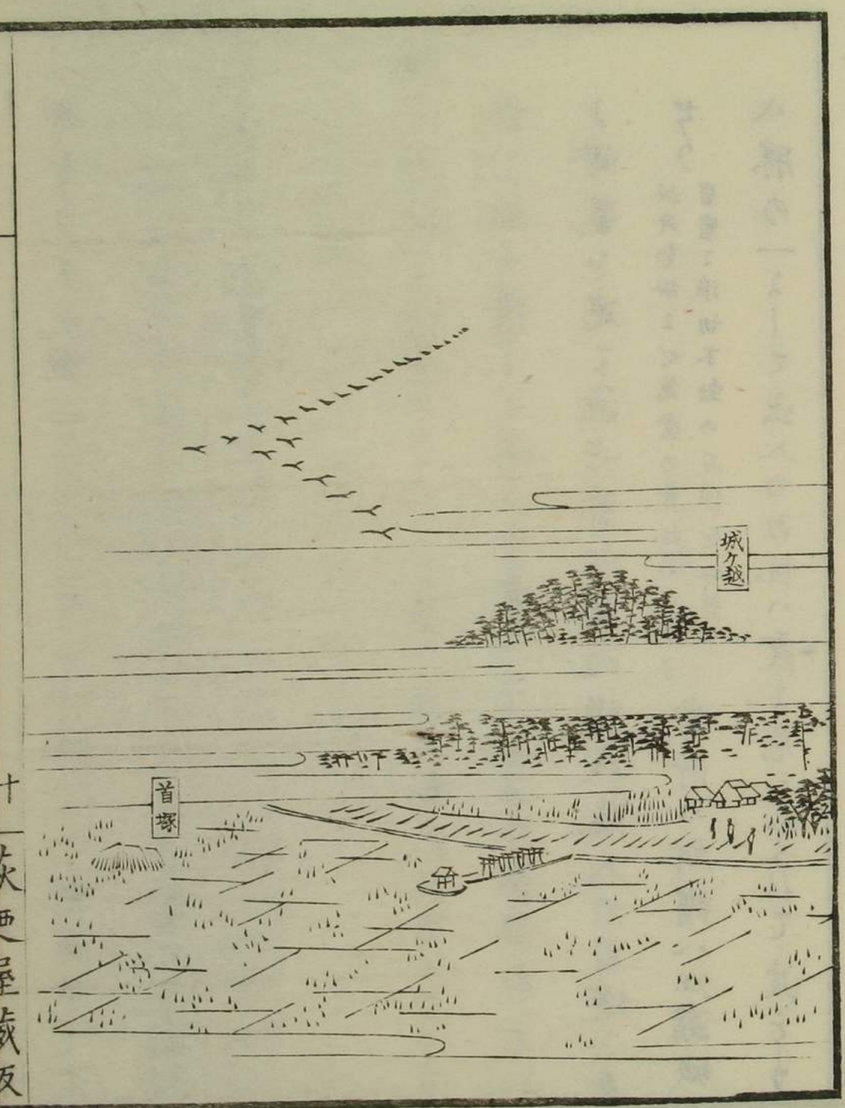
船津　中島新道より人家ニいる處を今も船津といふゝ
往古ハ此あ〻りをへての沼田ゝて濟口より此船通ふ

松本河原
鑄物司
郡司氏是を預り掌る



城ヶ腰山
長慶寺





所なりまた漁舟荷舟なども行帰りて繁昌せしと
そいふなりとて船津といふ号をつけられん當所を松村
長介といふもの住居せしなりとて今も猶松村用作と
いふ或書に云昔は潮水の入口といへり

鶴江夕照　同所より川を隔て向ふ都て此あたりより
前小畑に續くを鶴江の臺といふ又西の鼻浪打ぎは
に燈籠を建て漁舟賈船風雨暗夜湊入の目途とふ
せり　此所を俗に灯籠堂の鼻抔いふまた岩窟に浪切不動の石像を安置す　當所は所謂八江灘城
八勝の一にして出入の白帆は霞に見えかくれて波とも

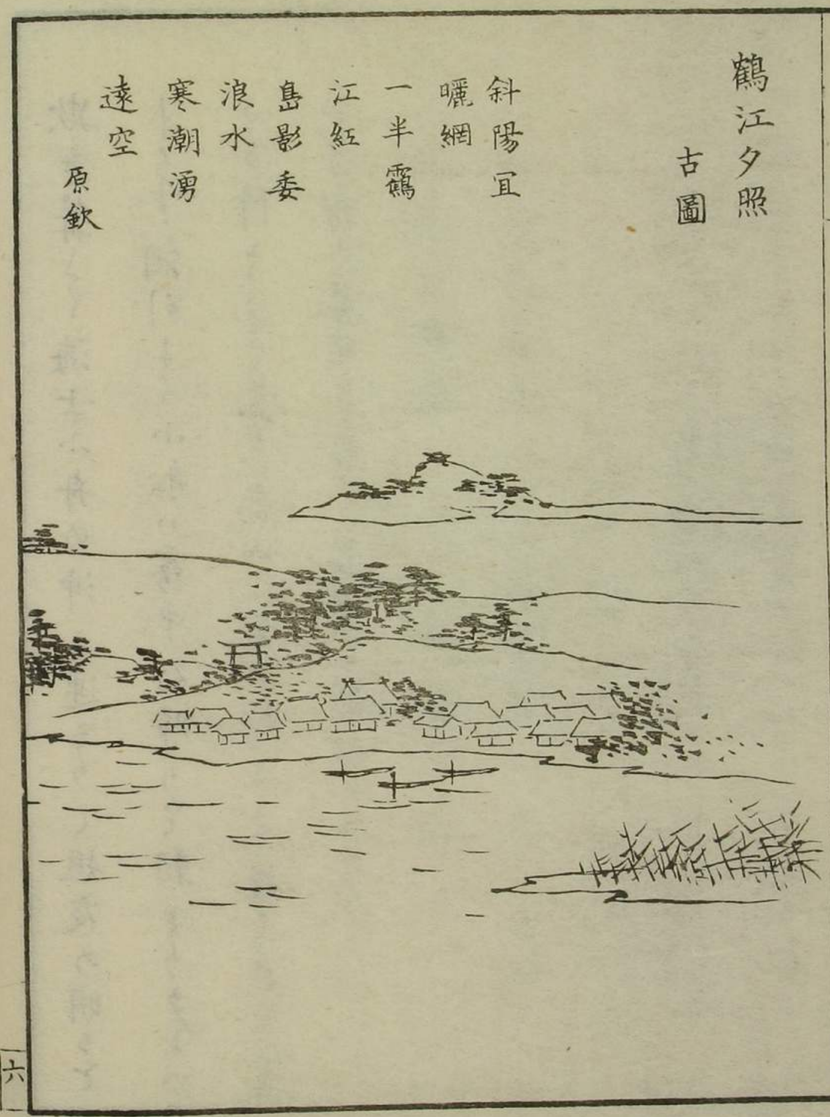
欺き箒〻海士小舟の沖に連なりて短夜の明るを
しらす網引なる小船は霧中行帰りて朝より夕まで
なる降そそく白雪は島山に雲のかゝるかと疑られて實
に四時の風光さまゝ画中に髣髴たり

斜陽直曬網　一半鶴江紅
島影委浪水　寒潮湧遠空　原欽

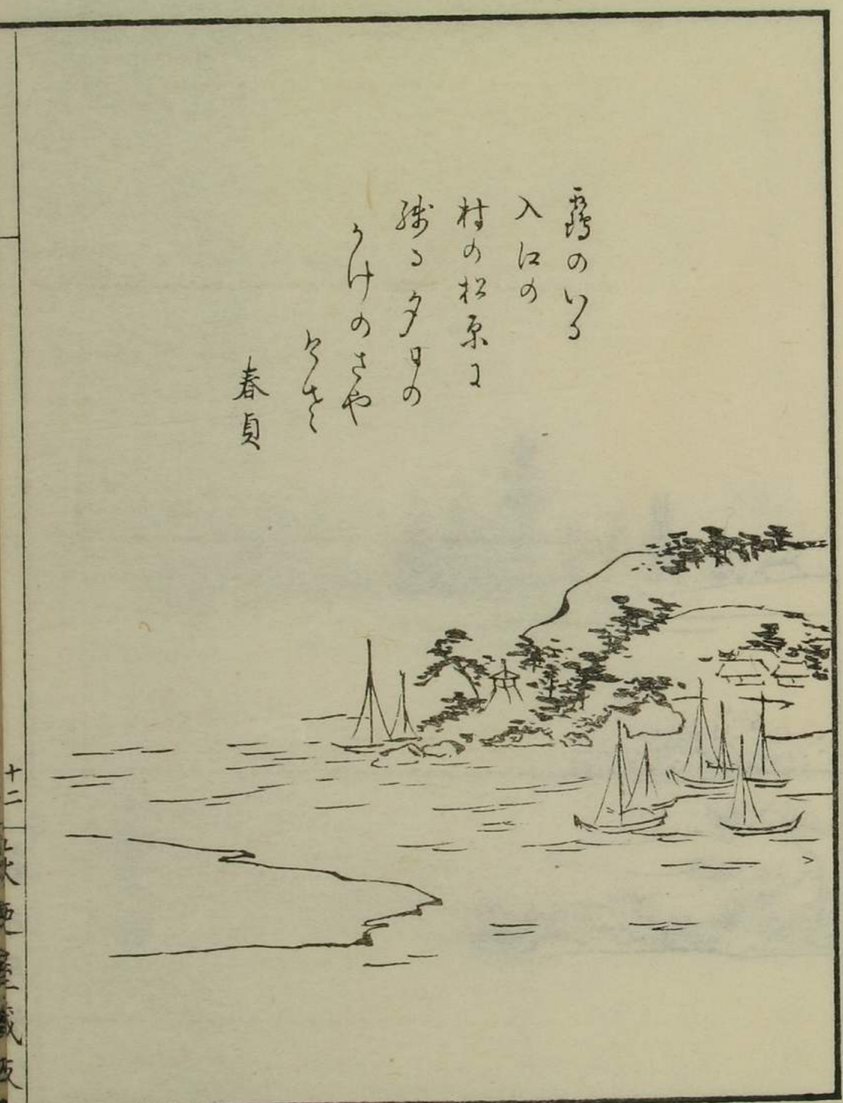
詩のゆゑ八江の村乃松原あり殆る夕日の紅をさやけき　春夜
遊行上人四國遊化のこゝより當所にそなる　清浄光寺　其阿
代〻をへくかゝぬ松は友鶴の八江乃松を契りてそすむ

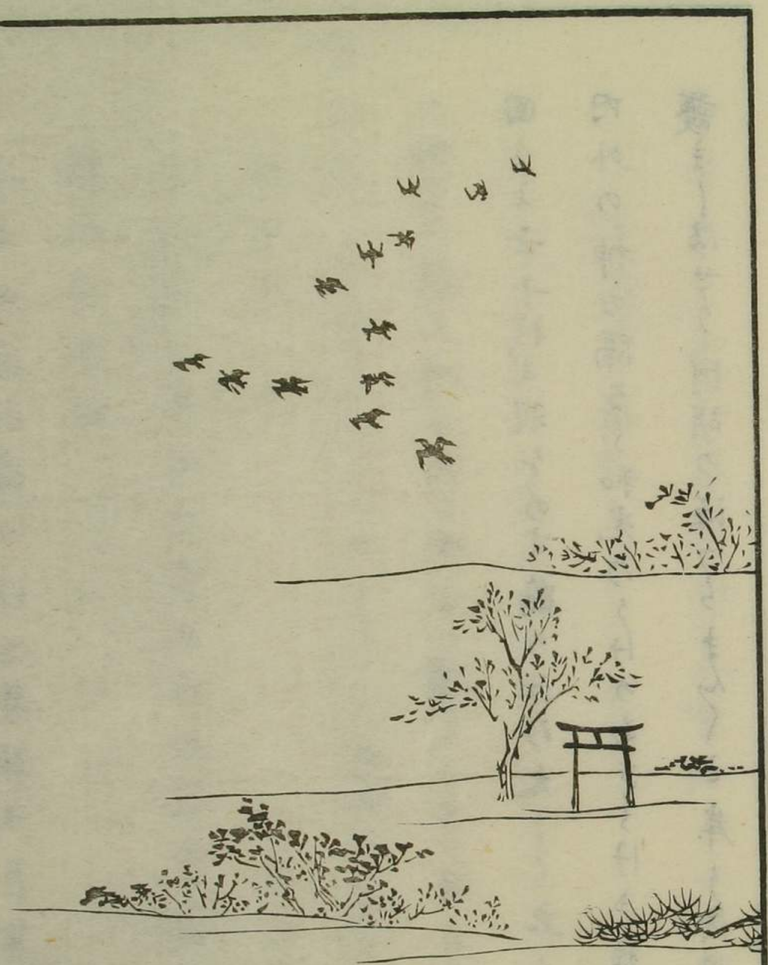
鶴江夕照
古圖

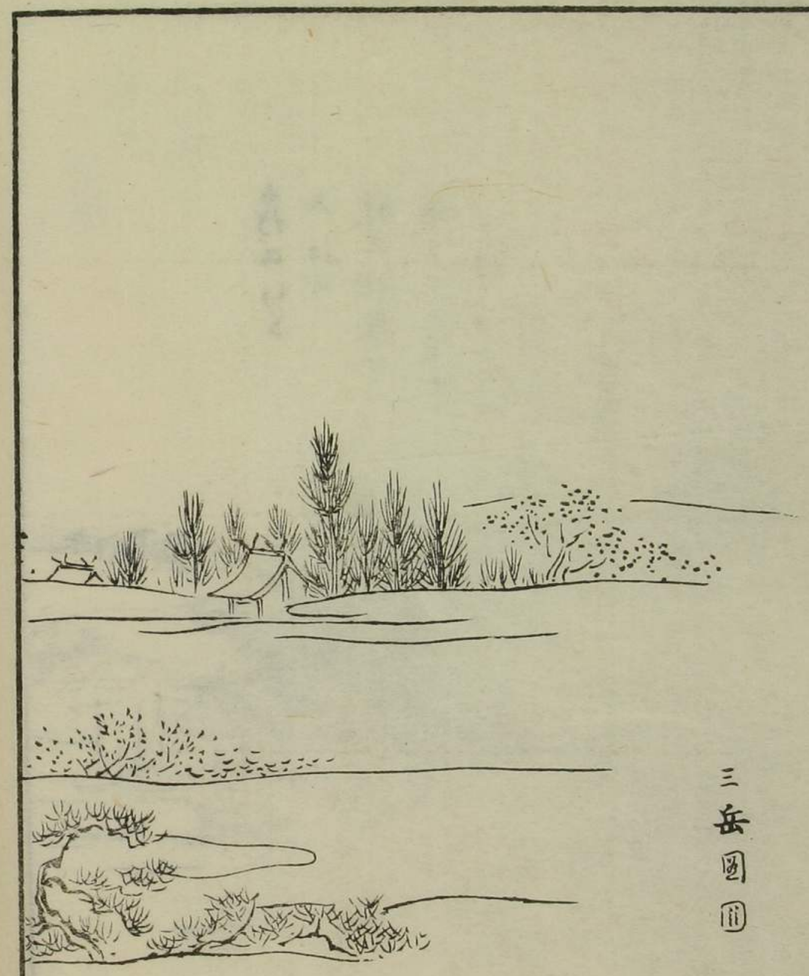
斜陽宜
曬網
一半霧
江紅
島影委
浪水
寒潮湧
遠空
原欽



霧の入江の
村の松原
漁る夕日の
うけのさわ
春貞







三岳図

安武城東北巍々　江上臺隔街塵界遠

観世佛堂開

長海連三越高陵望九坡松風飄鶴翼

将有羽人來　　山根南溟

阿胡海　當地たしかれる所をたゝに幽齋丹波日記ニハ

小畑より瀬戸崎の間ニ阿古の浦とよめる哥あり又萩

回りニ云千代ニ羽をのす鶴の江乃太しく立ー宮柱

内外の神の隅ちく和光乃うけのあきらけき萩城擁

護ましませり　阿胡の海つらまんくと岸うち浪や音

聲寺云ゝと見ゆ又阿胡海ハ今當郡奈古村の海を

いふと防長名所雜記ニ乃せたり實所たしかなれと

も古よりいひ來れハ因ふりてそこに出ー

丹波日記あこけうち浪のうくきくくれハ

小つみけとうニもくくやあそすらんおもうしたこの浦浪　幽齋

八雲御抄

時は風ふきあにあこの海の釣けのまゝ藻刈てれ

万葉十三

處女等之麻笥垂有績麻成長門之浦丹朝奈祇尓

満來鹽之夕奈祇尓依來浪乃彼鹽乃伊夜益外二

彼浪乃伊夜敷布二吾妹子爾戀乍來者阿胡之
海之荒磯之於二濱菜採海部處女等纓有領巾
文光蟹手二巻流玉毛湯良羅尓白拷乃袖振所
見津相思羅霜
阿胡乃海之荒磯之上之小浪吾戀者息時毛無
安古乃宇良尓布奈能里須良牟乎等女良我安
可毛乃須素尓之保美都良武賀

防長名所雜記

阿胡浦海八雲御抄云浦あこの長万海あこの長万

あさけのしま阿胡ハ名寄藻塩草等の諸抄ゝ同し長門
浦ゝ引續て北の方ゝいる浦の村家を阿胡村とゝ
國中ゝハ奈古と称つり藻塩草ゝ曰あこの浦と
いゝもあこの海ゝおかしことあり

杳渺阿胡海華韓水脉匯鯨噴千里浪
鵬擊一天颯
帶礪長相傳滄桑尚未改古来入國風
巳使驟人采

南溟

加利島　加利嶋ハ鶴江臺をいふと以て又三島郡或ハ江崎の沖中にある小島ともいふ或人曰今松本河原より千本松邊までの間をハ雁嶋といふれと是ハかとしまを謬りてがんどはといふもるへし是又奇説とすへし

防長名所雜記

加利島ハ俗にかれ島と云り江崎といふ沖にありられより石見の海に續く所なり云と

丹波日記云音法印細川幽齋

とかくして長門の國にいる磯のうへ遠くを見るに

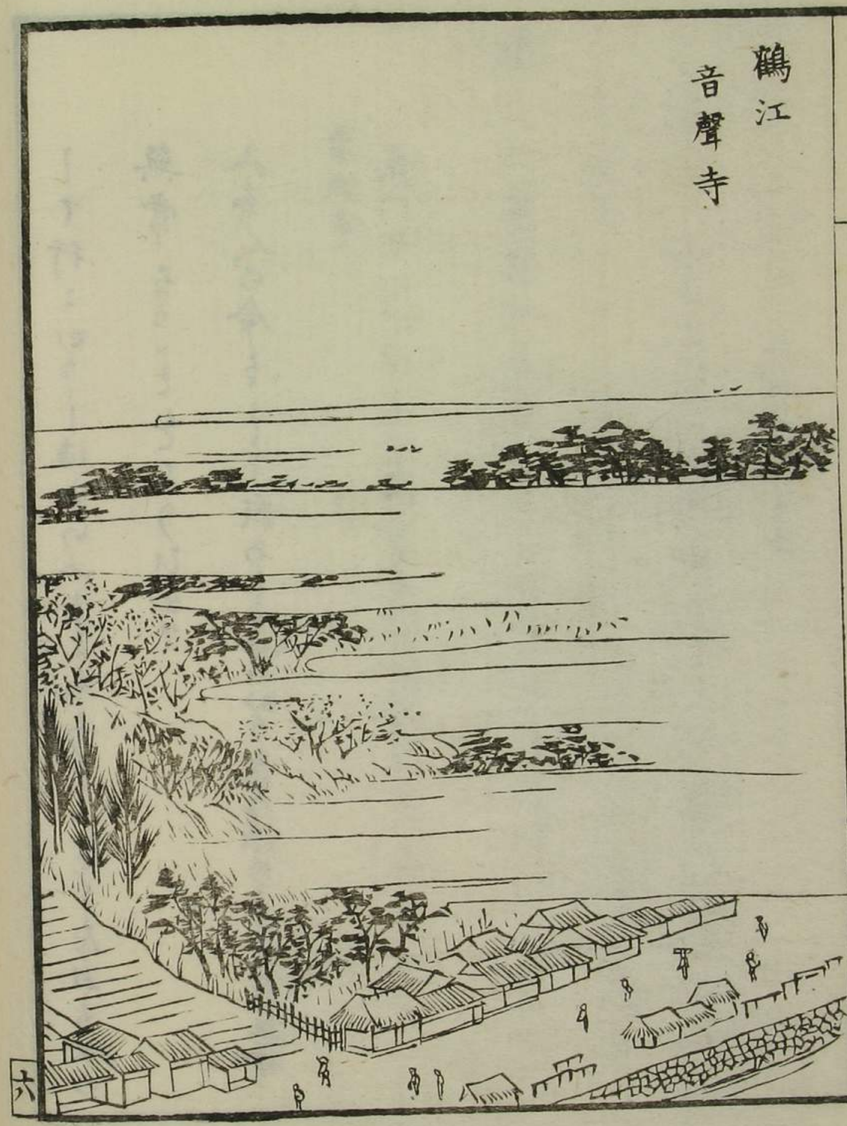
して行にかりしほとといふところあるときくたれも世の無常なることをおもひ出て

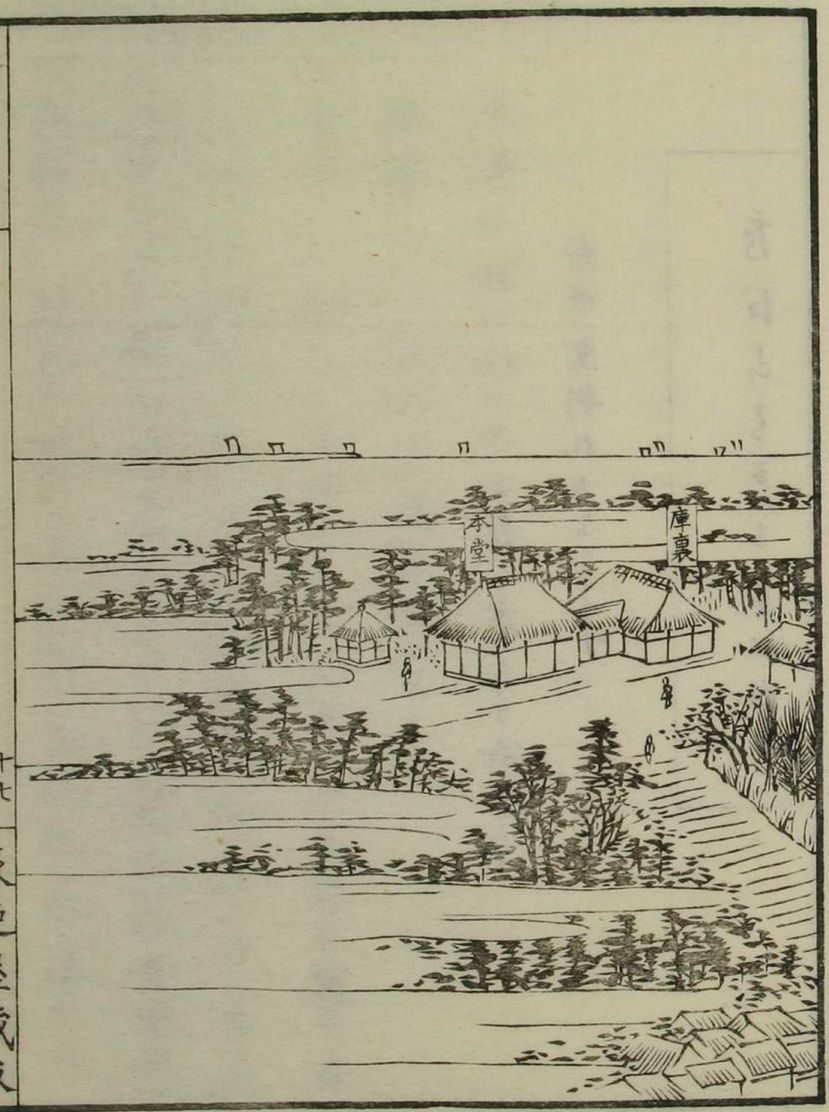
みなかの命なりしと新めるも世ハかり為の涙のもろた幽齋

藻塩草

長門なる沖ほうしほおくまへて我ものとハなるもなりもを

鶴江山常念佛音聲寺　同所臺川に臨てあり　俗多羅院と号す鎮西派の淨土にして常念寺に屬す開山ハ念蓮社宗譽曆雲和尚といふ寛文九年の艸創りて萩五山の一なり


鶴江
音聲寺


本堂
庫裏

念佛堂　本尊阿彌陀如来ハ佛工安阿彌の作脇士二十五菩薩ハ佛師宗印の作る所なり相傳ふ始善芳院とゝなりて破却ありおよひて後當所へ再建し今の号に改むまた當所ハ御城の鬼門の地なれ鬼魅守護の念佛場として當寺を建置給へりなれ

本堂の額ハ佐々木玄龍の書なる所なり

念佛堂制札左に記す

[illegible]山寺[illegible]ち[illegible]仏[illegible]

[illegible]

観音堂　本堂の左にあり本尊正観音聖德太子御作脇士菩師如来子安観音の二尊ハ弘法の作なり又當堂ハ七観音の一にして第六番目なり

元禄十年
六月十六日
[illegible]
[illegible]
志[illegible]

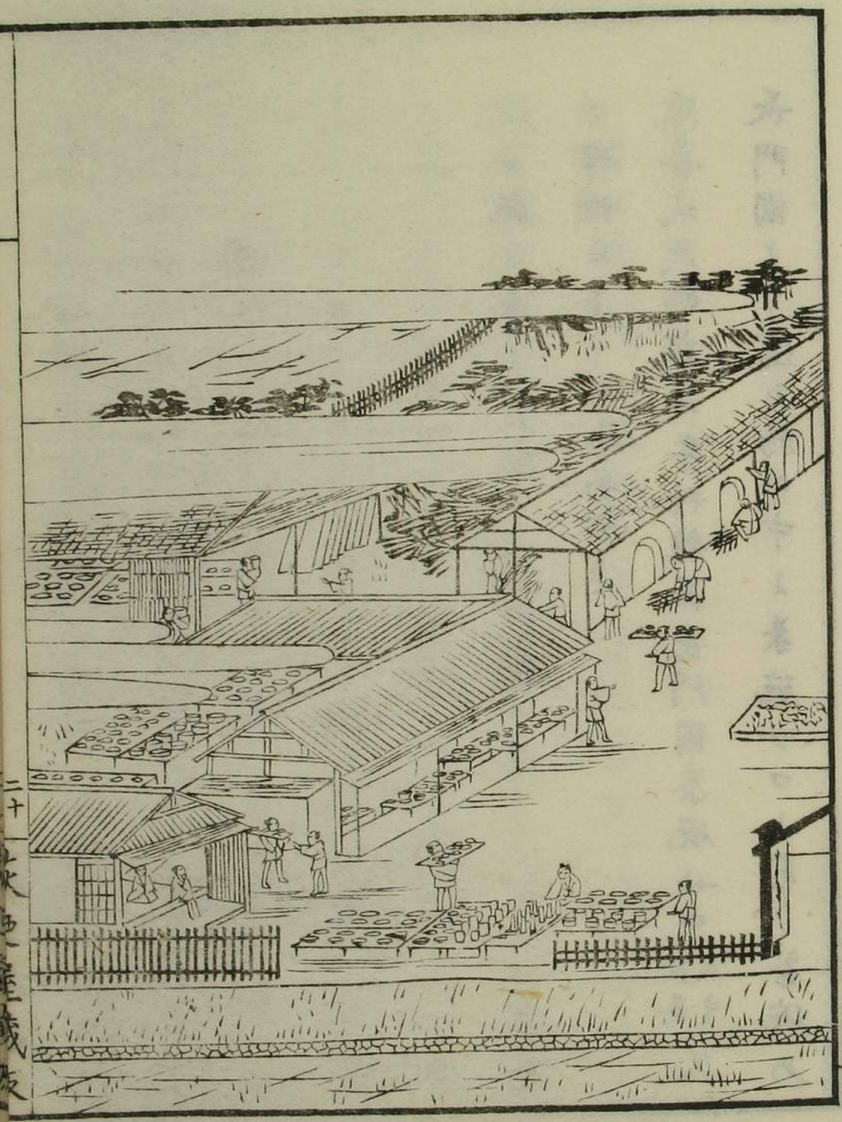
神明社　同所東に有り石壇三四丁を登る

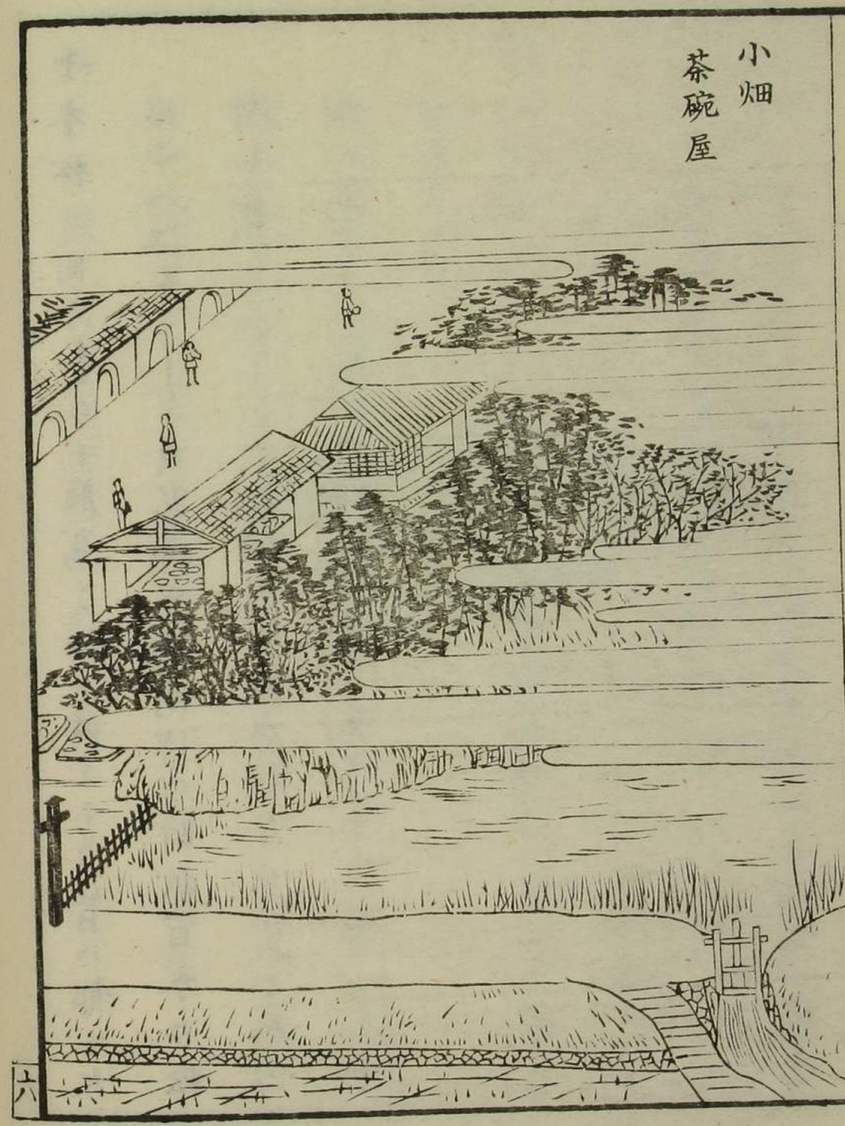
祭神　天照皇太神豐受皇太神大歳神

縁起に曰むかし此境ハ陰暗の地にて氣候順ならす

あらう上ニ漢賊動もすれハ當所ニ着船して人をあや
まち傷ふこと多くいとゝ惡むへき事なり〻我神や
ひくれこゝをひなん延長年中のことなりしか御神降臨
しまひて此地を守護ましまし〻と告玉ひぬ云〻今の三社
是なり
荒神社　同所より二丁程東ニあり當社ハ萩荒神
四宮の一なり古老物語ニ曰當社ハ阿武郡中第一
の古跡にして四方の荒神是より分神せし所ニそ
菊江夕照　いにしへ當所を萩八景の一とせり

千本松　同所臺の下雁島ニ出る所ニあり昔ハ都て大
沼の入江なりしを貞享年中御開作の時數百本の松
樹を栽おかれしとそ世俗号て千本松なとゝ云ふ田
圃の為にて西北の潮ふきはく風のをを障ん設
けなりとそ
香川津辨天社　同所より東北香川津村ニあり側ニ
小畑村二孝子の石碑あり二孝子の事ハ世俗の人
口ニ残りてその名高しとして記さん
小畑　當所ハ古へ驛舍にて三位村往来人馬の継場

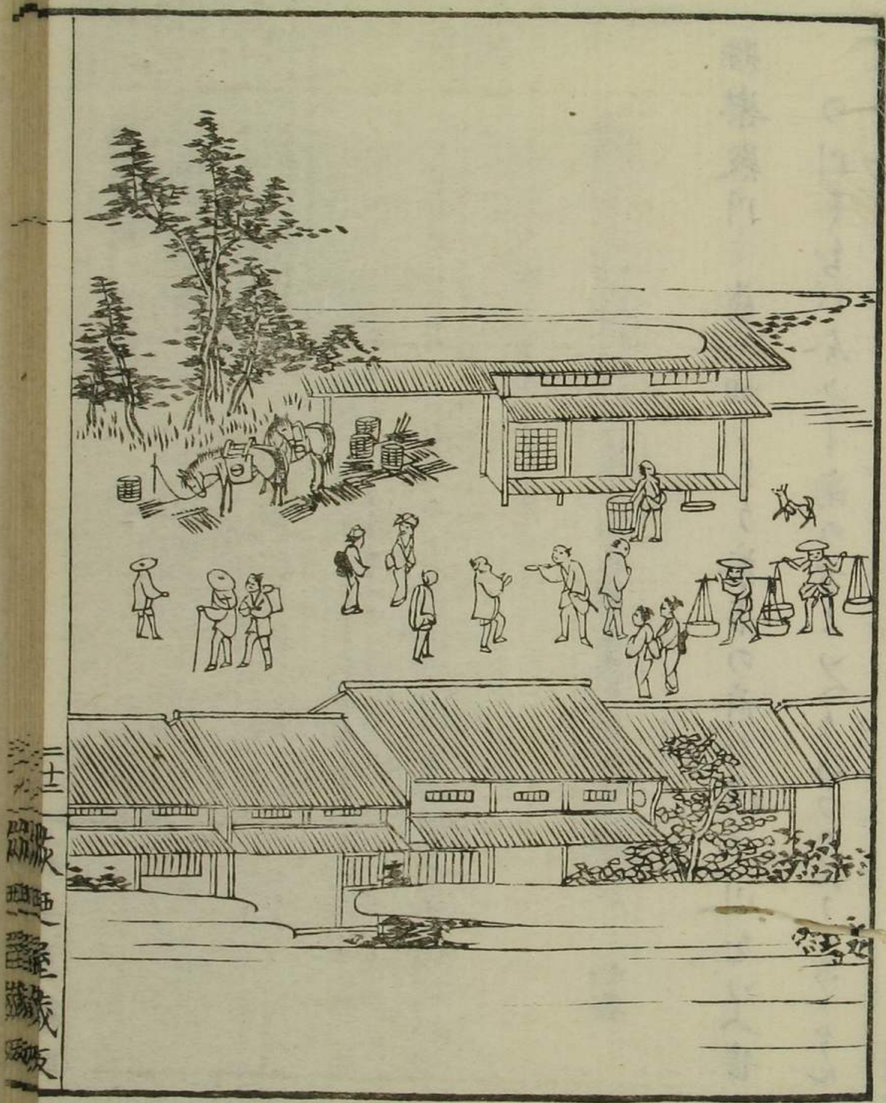


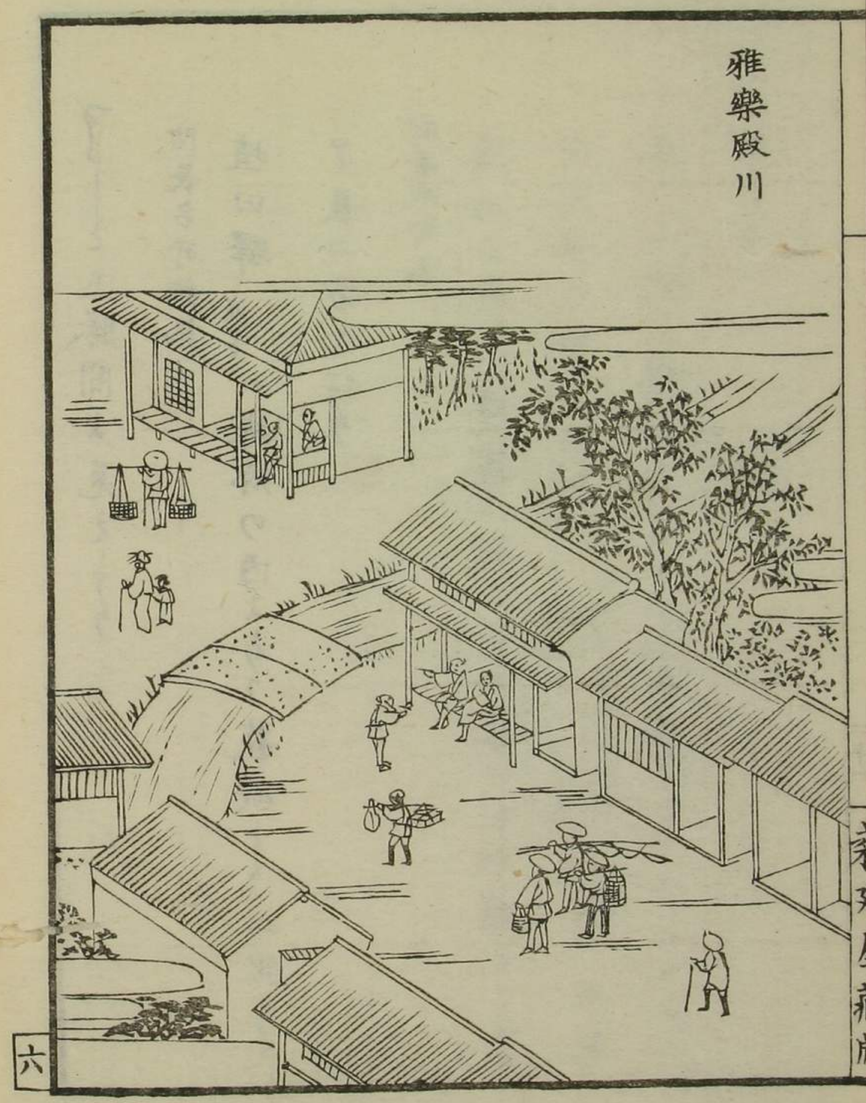


小畑
茶碗屋

より元ハ埴田といくり後に改めて小畑に手名産の
瓜ハ味ひ尤美にて上品とす又當地ハ土の佳き所
にて埴田といくるも是より出るありといくり以
みへより陶器を造り出し今猶製造家所に多
しその山を天長山と号く世俗にハ茶碗山といふ茶
碗皿類を專らに製し御両國ハ更にもいまた諸國
の津浦に多くくり出せり
延喜式民部省式年料雜器長門國茶碗廿口 徑各五寸 又
長門國より進る物の中に茶碗廿口とあり茶碗め

つしと玉勝間に見えたり
防長名所雜記
埴田驛 波多ハ椿郷の内にあり萩城より一里より
巳艮の方にあり
延喜式印本
填田とあるハ傳寫の謬りなり埴田を今國中に墾
田沿田の字を用ふ 俗に小沿田といへり畧して小畑の字をも用ゆ 此村の土地
埴なり故に埴田の名あるにや海のあなたに一
村なり




雅樂殿川

兵部省式
長門埴田

丹波日記

同じき國浦小畑といふ所へ唐船のつきてあるを舟人のいちゝ語りけれはさらハ見物せんとてそるかゝ舟をよせてちらしてとめて

我もまゝ浦付ひて漕めぬ唐土舟のよりて湊に　幽齋

雅樂殿川　前小畑にあり茶店の前を流る川を又昔の川もぢハ今少し南の方といふ所のはしにあり

白山社の神主矢次雅樂といふる人毎朝此川にきよりて水を灌き垢離して白山の社に詣てゐしとそ故に此名の殘りしといふ　矢次雅樂墓碑といひて今香川津長濱山にあり又當町樽屋町に人何某といふる者矢次氏の孫裔にして

ひ傳ふるものなり

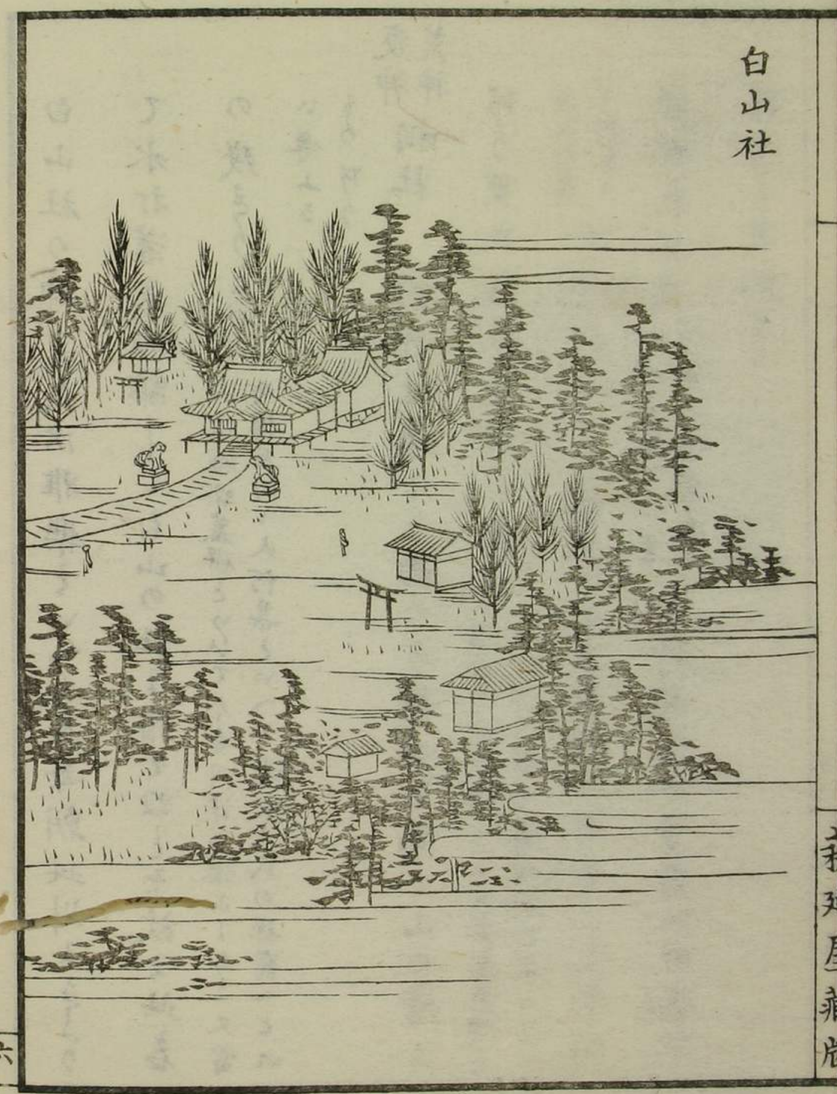
疫神
荒神　相社　同所往還より南の方耕田を隔て山の傍に

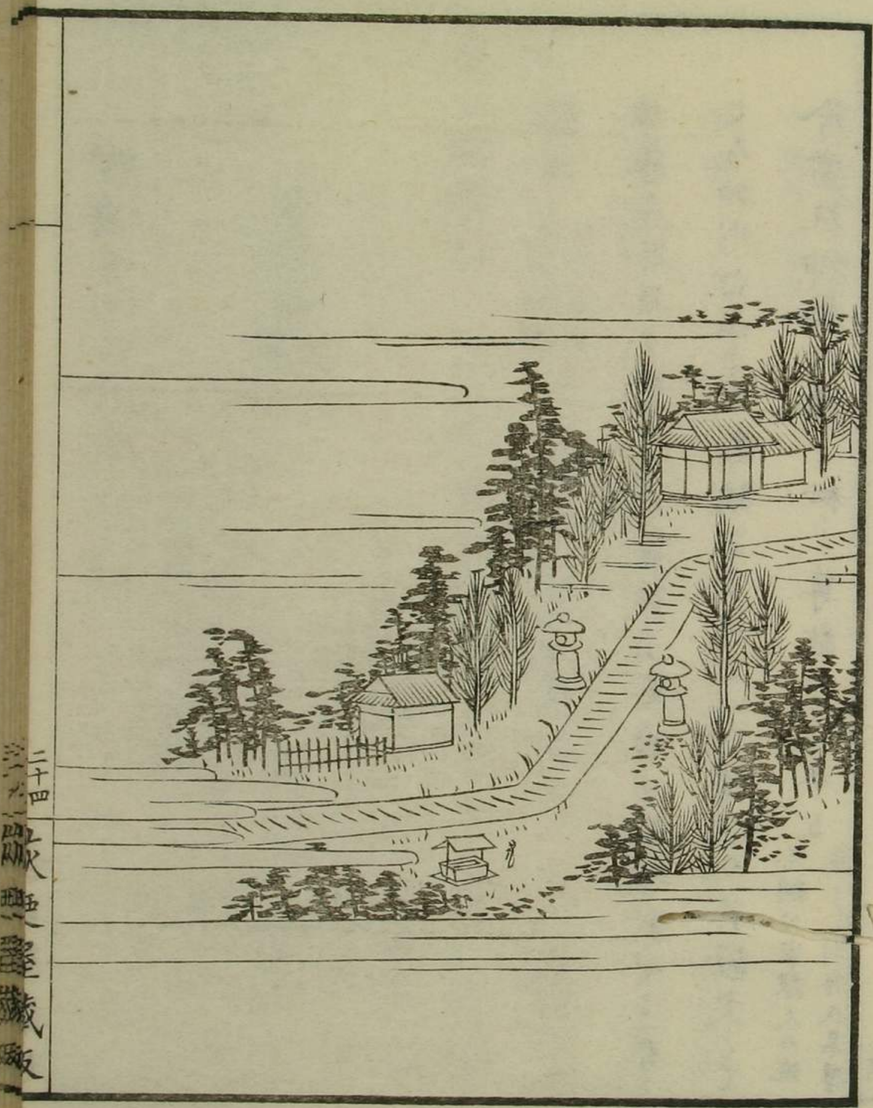
ひとり里民福光荒神と稱せ　當所を福光村といふ又勝屋荒神ともいふ勝屋權現御相殿なり

土人の傳る所なり　祭神詳ならす棟札に云其祭始を考ぶ天文年間

後根氏再興　今御舟藏付の者此氏の孫裔あり　于時明和年望齋阪時保敬

撰をと書記せり


白山社



神前右の石燈籠銘に曰

再興後根壹岐守盛道天文廿四
乙卯至宝暦四甲戌二月貳百年

奉寄進疫神
荒神

盛道六代孫　後根長左衛門盛武
同　九郎右衛門盛勝

諸願成就

白山權現社　同所往還の左にあり社司神田氏奉祀す

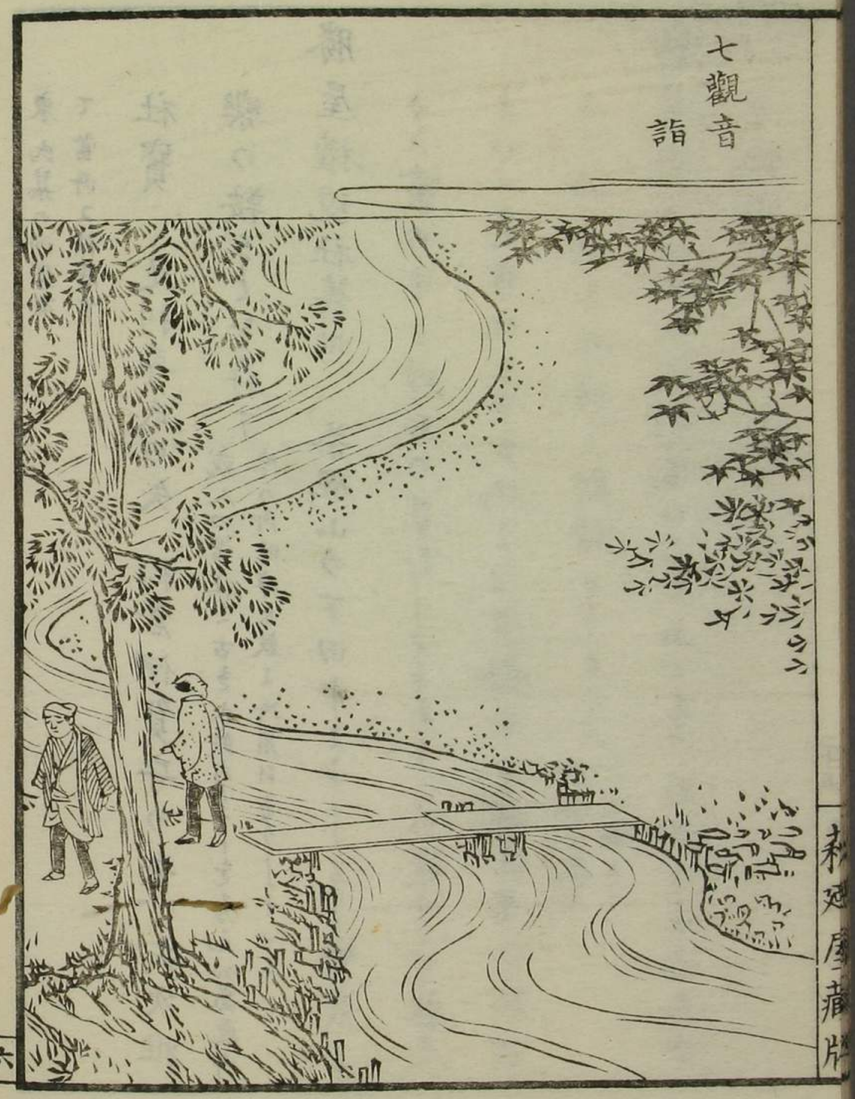
祭神　伊弉諾尊
伊弉冊尊　大巳貴命　以上三座　相傳ふ弘仁年間左大臣藤原朝臣冬嗣公長門國阿武郡埴田邑領封せられしころ加州白山より勸請ありしといひ傳へ其證文として今當社神躰の傍に秘し尊敬なし奉る　冬嗣公家隷人の流裔なる別府氏某厚

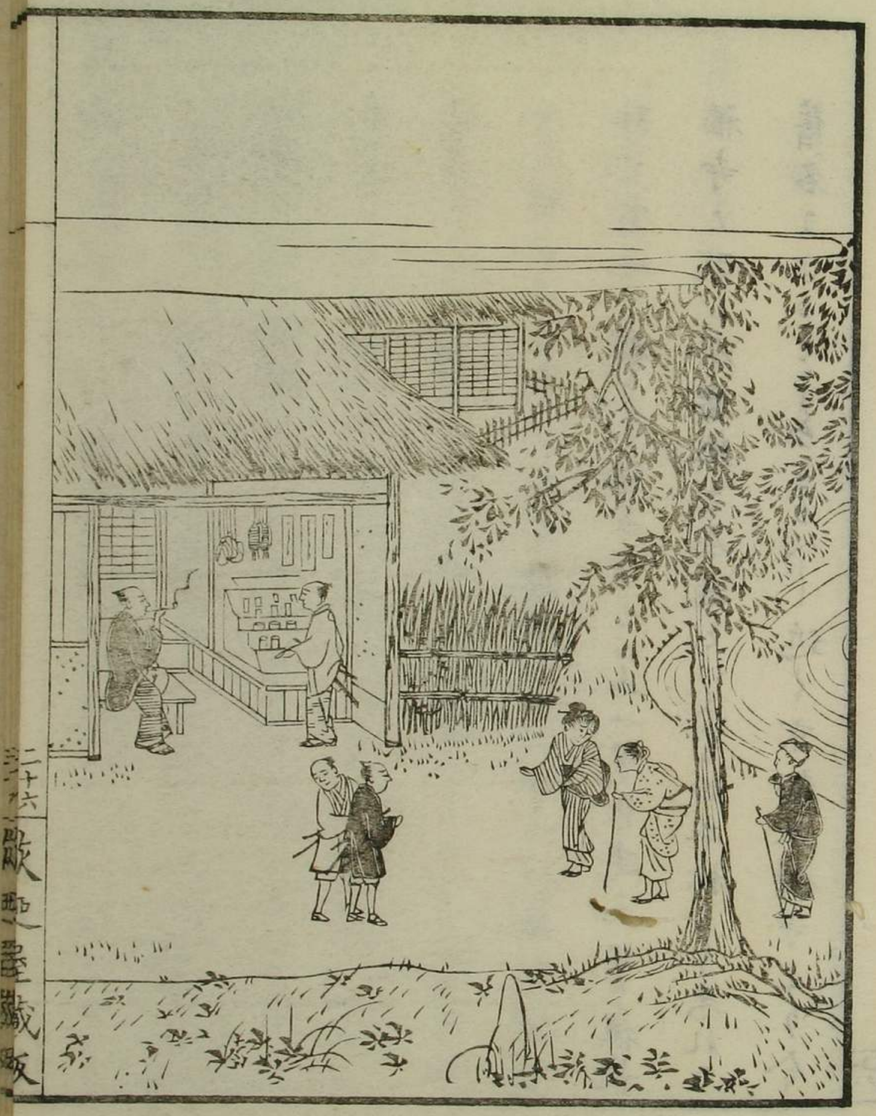
東氏某の両家有て當所に住居す

社寶　足利尊氏の矢　松倉伊賀守の矢　矢次雅樂の鞍なとを存す　或人曰當社に古き太鼓あり〳〵を考へ元公高麗御陣の御時陣太鼓に御用ひありしとぃふ

勝屋權現社舊地　茶碗山の下田中に少〳〵なり繁茂し叢の中に礎石の苔むしるありこの邊すへて勝屋といふ是舊地なり古記に曰貞觀年中勝屋某小畑浦にて神体を拾得て勸請せりといふ　神体に權現と云銘あり

妙見社　中小畑烟硝藏の上の山にあり石祠に安永年中と記す


七觀音
詣

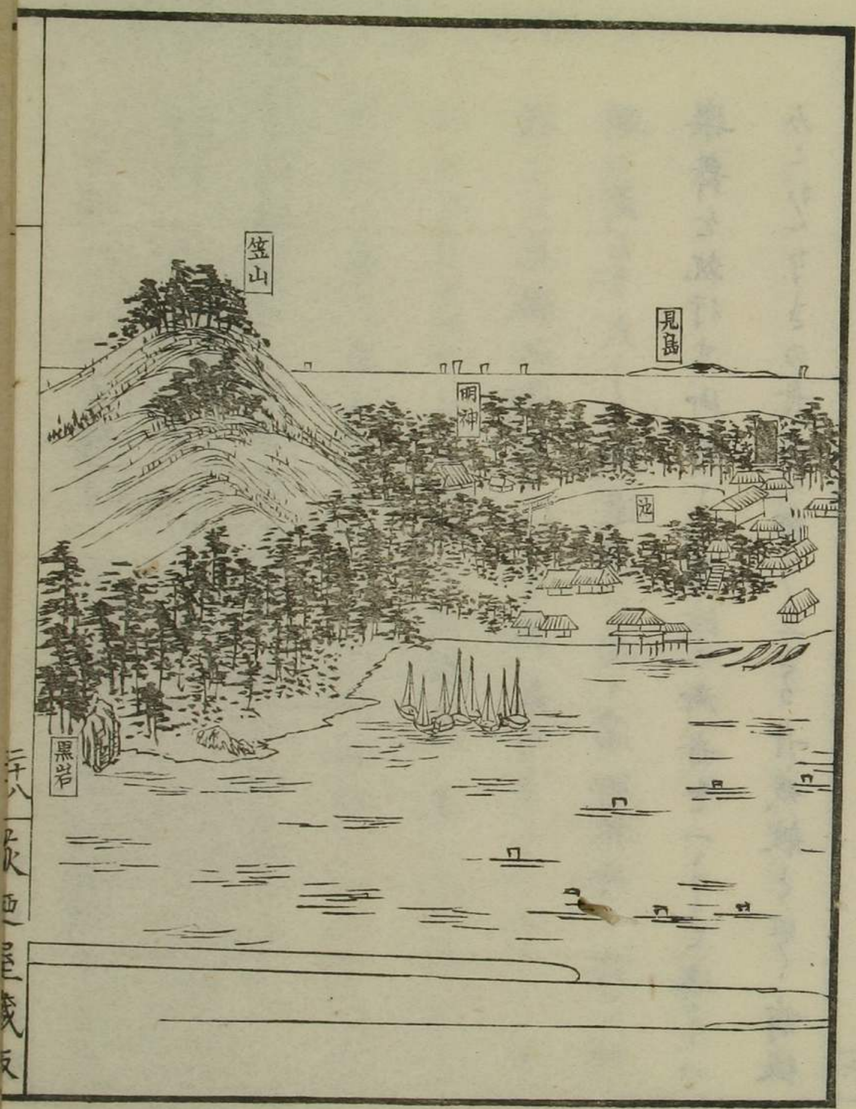


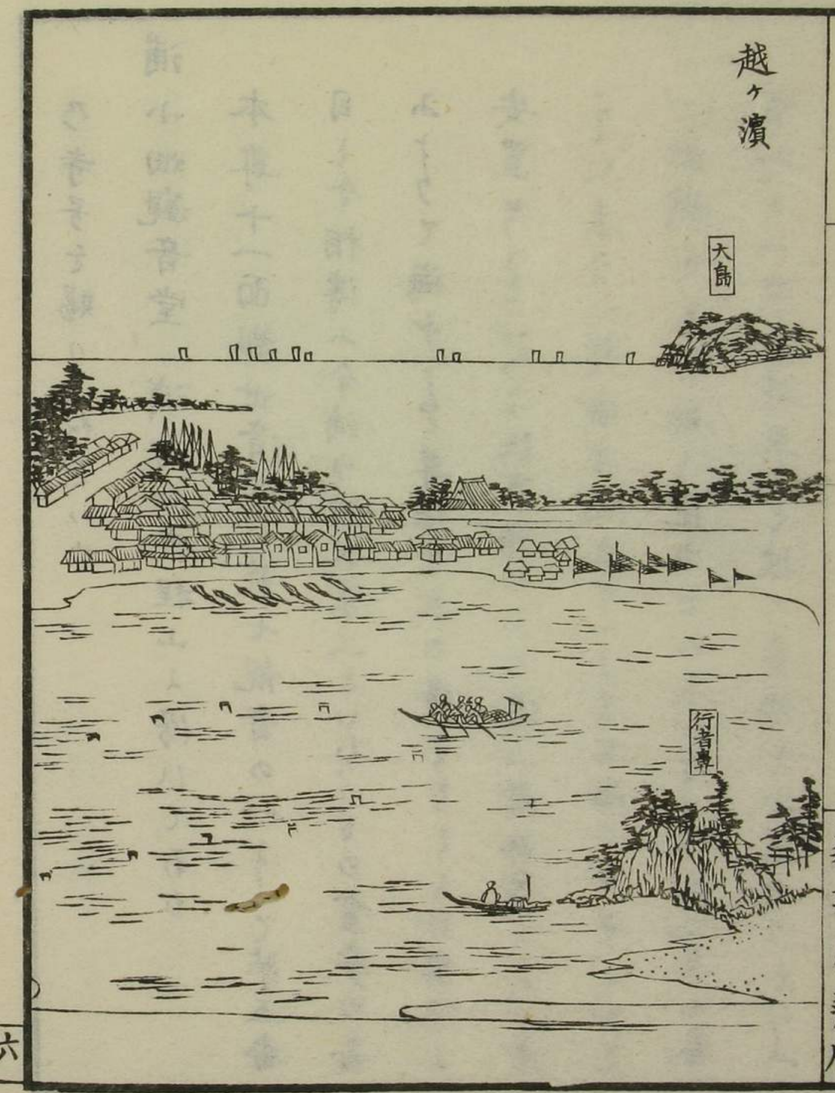
月峰山永照寺　同所踊場浦町の後にあり一向宗にて京師本願寺に属す本尊に阿弥陀を安置す開山は西瞻といふ相傳ふ永正年間筑州芦屋の里乃百姓吉見家に由縁ありしを以て萩に来り先指月山（今御城山をいふ）麓四本松今浦といひし所に住居せりといへり此りの頻りに佛門の心ありて終に薙髪して一宇の艸菴を結ひ即て當地に移りて法名寺といふ一宇を建立せり後長福寺と改む今當地を今浦といふも四本松より来れる舊名によりてなり近く京都本願寺より今

乃寺号を賜りぬといふ

浦小畑觀音堂　浦町の中程山に傍ひてあり

本尊十一面觀世音并ハ萩七觀音の一にして第五番目なり相傳ふ今浦の漁父京にといひしもの霊夢の告ありて海中より尊像を求め得たりしかち妙雲院に安置せりといへり後享保のころ道心者西雲といふる者らに来り一精舎を建立せんとて日毎に市中に出て一粒銭をもひ終に他力を以ておもへり　十九年の春當所に一宇を建立して彼の尊像を安置せりといふ


笠山
見島
明神
池
黒岩


越ヶ濱
大島
行者鼻

まゝ境内ニハ重櫻の一株を栽ゆ春時爛熳ゝて尤壯觀ゝり

越濱明神社　奈古屋島御茶郎の池ニ臨てゐり

祭神ハ藝州嚴島宮ニ同ゝて市杵島姫を祀り奉る祭祀ハ七月十七日ゝす此夜神輿御舟ニ乗ゝ玉ひ沖中を廻りて先塩止御門ニゝり御舟をもゝゝ止めて神樂の式あり夫ゝり儀邉傳ひ菊ゝ濱御旅所ニ於て神樂舞を執行す御舟ニハ管絃の御舟を一ゝて次ゝハみこかんなきの舟或ハ飾り立ゝる舟幾艘ゝれゝ前後

左右ニ連り萬燈白晝ゝも明ゝ拜見羣集ゝて濱邉狹ゝゝゝみあゝゝり或ハ賽錢取の聲まゝハ物驚ふもの〻轉り相半ゝて浪風ゝも耳ぎハ近う囂ゝ是も亦賑ハへゝる風情ゝるへゝ（世俗ニこの祭を御管絃ゝ）

緣起ニ曰當神ハ昔元就公御信心の御神ゝて數度御出馬の御利運もあゝゝるゝ綱廣公御夢ふゝゝて正寶九年藝州ゝり御勸請ゝ玉ひゝる所ゝり

古老吉左衛門ゝ云ゝ夢みゝゝ此山上ニ一の大きゝる池あり其水底ニ珠玉三ッあり是をゝゝて明神社瑞津

の宮惠比須社へ納め奉るべしと神告を得たり即て
かの所よりもとめて探り得て三社へ納め奉まつるとい
ふ此玉いと奇偉なるものにして尊しといひ傳ふ此島いむ〳〵奈古
屋某といへる者住居せしといふ

長越濱在府城北十餘里為北海上第一佳山水也而長主自古置
狙公艤狙數千箇城中人不問四時絡繹遊此蓋長主之園囿而
與民同其樂者也庚申春予有周州之行帰程取道於長城因
與二三子同遊濱上為客路一日之棄嗚呼長予父母之國也
而初予見此濱也生僅三歳之時矣乃今齢已五十有三重過
焉則可無感慨乎因乃卒然賦此詩　無隠禪師

我生未辭襁褓裏雙親抱持遊此地而今鬢髮可欺霜重遊恍惚如夢
寐沙頭漁家依然在池邊花木皆長大拍手群猿求食来熟視吾顔
如有怪吾考吾妣棄吾久爾妻爾兒無恙否朝三暮四謹勿怒茅无
多少賦前後更披蒙茸陟崇岡占斷佳興獨彷徨南望月城長城名指月城
山蒼翠北眺樂浪水渺茫越王樓臺安在哉晝錦英雄去不回欲求
詩句述懐舊風暗海面暮雨来

八江萩名所図画六之巻終

永楽屋藤版